



愛隣幼稚園.....

園だより

.....16. 3月号

仲間の笑顔が嬉しい

子どもたちと「今日も楽しかったね!」「おもしろかったね!」という毎日を過ごしていたら、この年度ももう歩みを終える時になっていました。そう組の仲間たちを送り出さなければいけません。

今年のX2は新しい試みの中で過ごしました。これまでのX1やX2は、それぞれのクラスの楽しいことに他のクラスを招待して楽しむ日を、クラスごとに設定するという形で最後の盛り上がりの時を過ごしてきました。それを今回は“スペシャルあいらんまつり”という1日に集約して、幼稚園中のみんなで作り上げていこうという試みです。イメージとしては「愛隣幼稚園の文化祭」ということでしょうか。それで「あ、今までばらばらにやっていたことを1日にまとめてやるってということね。」と、何回かのX1、X2を知っているお家の人たちは想像してくださったと思います。でもそんな1日を過ごすことができる、その意味をもう少し知ってもらえたら、子どもたちのもっている力や成長をもっとわかってもらえるんじゃないかと、私は欲張ってこの園だよりを書いています。

愛隣幼稚園は7年前に園舎の建替えを行いました。年中と年少は1階、年長は2階になり、大きい組の活動は見えにくくなりました。“学年を越えて幼稚園中のみんなが仲間になる”ということは私たちの願いですが、それが物理的に少し難しくなったように感じました。ところが、“あそび”を通して様々な仲間と出会い、幼稚園中のみんなを仲間と感じて過ごす子どもたちの園生活は変わることがなかったのです。“あそび”は一人ひとりの子どもの生活を充実したものにするだけでなく、仲間を巻き込んだ生活を創り出します。この生活の充実や満足は“あそび”を通してしだいに学年を越えて広がり、幼稚園中の子どもたちを仲間と感じる生活を創り出していきます。そして主体が「わたし」から「わたしたち」に変わり、幼稚園全体が視野に入った時、子どもたちの生活の充実や満足の質は大きく変化していきます。自分一人の満足だけに止まらず、仲間が喜ぶことが自分の満足になる、“あそび”を通して獲得したことがやがて社会を形成していく人たちにとって望ましい原体験となります。愛隣幼稚園が大切にしている“あそび”の力がここにあります。

さて、今回のX2を幼稚園全体の企画に広げようと提案したのはそう組の先生たちでした。そう組の子どもたちが小さい組の仲間たちと一緒に過ごしてきた姿を嬉しく感じ、彼らならこのことを一緒に考え、張り切って準備して楽しめる、そう信じて提案しました。子どもたちはその提案に「いいね!」と応えてくれました。提案を聞いた子どもたちから「じゃ、お知らせに行こう。」「そうだ、どんなことしてるのか聞きに行こう。」「みんながわかるように地図を作ろう。」「おまつりの飾り作りたいね。」「一緒に作ろうって放送しよう。」「係りを決めて準備しよう。」・・・等々、たくさんのアイデアが溢れました。子どもたちを信じて正解でした!瞬時に小さい組にも『スペシャルあいらんまつり』の計画が伝わり、幼稚園中の子どもたちの心は期待でいっぱいになり、みんなが興奮気味の笑顔で過ごしました。お気付きだとは思いますが、そう、この生活すべてが“あそび”です。そしてここには、仲間が笑顔になっていることを喜び満足しているそう組の子どもたちがいました。子どもってすごい!大人以上だと思いませんか。

木下理事長がこう書かれています。【民主的会社とは「一人ひとりの人権が尊重され、一人ひとり違いを持った者として存在の意義が認められ、一人ひとりの持っているものが発揮され、誰も威張らず、誰も損なわれず、皆が一人のことを大切に、一人ひとりが仲間のことを考える」会社であると考えます。私たちが園生活で実現したいと願う生活はそのような民主的な社会のひな形としての生活である。一共同の園生活作りとしての保育一より】この年度を歩み終える今、そう組の子どもたちを中心に私たちの願う園生活が繰り広げられています。「仲間の笑顔が嬉しい!」この喜びを知っている君たちが私たちの誇りです。